

令和4年度 第4回芳賀町学校運営協議会会議録			
日 時	令和4年11月29日（火）18:00～20:00		
場 所	町民会館 多目的室		
出席者	[学校運営協議会委員] 稲川浩司、岡田由美子、吉永教雄、野澤儀之、阿久津友希、小林史貴、岩崎進、小山佳子、今井由佳、岩村智織、森島規仁、古谷康典、今西雅子、斎藤裕美、手塚真、水沼一彦、関本一雄（協議会委員出席17名）		
	[芳賀中学校]（校長）山本 守 （教頭）柳 利通 （地域連携教員）鶴見優希 [芳賀東小学校]（校長）小林春彦 （教頭）半田高代 （地域連携教員）高久 誠 [芳賀北小学校]（校長）小堀 隆 （教頭）手塚幸子 （地域連携教員）富士井慶 [芳賀南小学校]（校長）生井克成 （教頭）関本恵美子（地域連携教員）那花和哲		
	（教育長）古壕秀一 [教育委員会事務局] （学校教育課長）小林芳浩（課長補佐兼学校教育係長）高橋輝秋 （学校教育課指導主事）松本 薫（学校教育課指導主事）涌井俊裕 （生涯学習課長）高津健司（生涯学習係長）大岡久美子 （社会教育指導員）柳岡敦子（生涯学習係主事）片桐綾乃		
	司 会	高津健司 （議事進行）稲川浩司会長	書 記
概 要	1 開会 2 あいさつ（学校運営協議会長 稲川浩司） 3 協議 4 事務連絡 5 閉会		
協議事項	1 開会 2 あいさつ（学校運営協議会長 稲川浩司） 12月も目前に迫り、朝晩涼しいというよりも寒いような時期に入ってきた。芳賀町でも新型コロナウイルスに感染された方が多数おり、学校においても学級閉鎖、学年閉鎖、学校閉鎖の対応がなされた。今は普通のカリキュラムに戻って運営できていると聞いている。学校運営協議会も第1回を5月、その後、各学校の分科会を2回ほど挟んで、当初は全体会を8月頃に熟議を予定していた。熟議に向けて2回ほど運営委員会を開催して準備をしていたが、コロナの関係もあり日程の調整がつかず開催できなかった。お詫び申し上げます。 今年もそのような状況で学校運営協議会が進んできたが、後半は全体会で分科会の振り返りを中心に行いつつ、熟議も設けたいということで日程と内容の調整をしている。研修会などもあり、事務局でも準備をしているので、年度の最後までよろしく願います。		

3 協議

(1) 法に定められたコミュニティ・スクールの機能である「学校運営について教育委員会又は校長に意見を述べることができる」「教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる※」について協議する。

※対象学校の運営に関する基本的な方針の実現に資する事項（特定の個人に係るものを除く。）とする。

1. 各学校の分科会振り返り

稲川会長： それぞれの分科会の振り返りを行い、全体に共有したい。

(芳賀東小)

稲川会長： 今年の活動の特徴は、お囃子を授業でも取り入れて、地域の方々と一緒に活動をしていること。分科会の時に子どもたちが参加して、演奏を聴かせてくれたり歌を歌ったりしてくれた。運動会の時にも子どもたちが日光和楽踊りの東小バージョンの歌詞を作って、地元のお囃子の方の演奏と一緒に歌った。

課題としては、この活動を持続的、継続的に行っていくための方策や仕掛けと、お囃子だけではなく学校の様々なボランティアの協力をしてくれている方に、感謝の気持ちを表すような謝礼などができないかということで学校の方からも提案があった。

受け手となる地域側も一緒になって作っていないかといけないという意見もあり、まさに学校運営協議会の目指すところである。

(芳賀北小)

阿久津委員： 小学校の教員の先生が足りない状況や忙しいという現状を聞いた。例えば丸つけや、見守りボランティアなどできる範囲でご協力いただければありがたいというお話があり、依頼の文書や回覧板などで学校の現状を周知したらいい自治会から意見もあった。

また、ボランティアなどでは児童への声掛けや注意の仕方など、今の時代にあった児童との接し方について、ボランティア参加者に学んでいただく場を作りたい。北小コーディネーターが岩村さん一人で負担もかかっている。地域の方に呼びかけをしてコーディネーターを増やすことで活動の幅も広がると思うし、行政からサポートがあればコーディネーターをやっていただけでも増えるのではないかと。

地域のイベントに子どもを参加させたいが窓口をどうしていくかという意見もあった。環境保全会や育成会など多数組織があり、横のつながりや連携が取れない部分があるので情報共有をしながら連携を取っていければ、行政からもコンタクトを取りやすくなり、いろんな行事に参加しやすくなるのではないかと。

学校の感謝の会などでは、コロナの関係もあり人を集められない状況で、直接お礼を伝えるのは代表生徒のみにはなってしまうが、リモートを活用しながら開催したい。

(芳賀南小)

那花先生： 南小の駐車場について、課題として挙げたのは、駐車場が狭い、送迎の際に安全に通行できないということ。児童の安全確保、保護者が安全に送迎できることを目指して学校では駐車場や校庭の工事などを据えた見直しをはじめた。

今年度の資源物回収は、地区ごとの状況に合わせて個別回収と一括回収を行った。

ボランティアの協力もあり、当日は回収にかかる時間が大きく短縮された。課題は、自治会に入らない人の増加や賛助会員の減少が挙げられた。学校と地域との連携の面では今後ますます難しくなっていくと予想されるので、解決方法を探りたい。

「みなみの会にじ」の皆様にはたくさん学校に入っていただいております。2年生の掛け算九九の聞き取りのお手伝いを計画していたが、コロナの増加があり中止になった。にじの皆様からは、コロナ禍でも活動の場を確保してほしい、できる限り学校と一緒に工夫して活動していきたいという意見があった。

(芳賀中)

柳教頭先生： 学校行事について、ほぼ予定通り実行できたと話題に上がった。明日からマイチャレンジが始まり、年度内最後の大きな行事となる。マイチャレンジの時期について、1学期などにできないかという意見も出ていたが、教育課程などとあわせると難しいという判断をした。教育効果を考えて子どもたちが実践できる場、社会に出て体験できる場を確保してほしいと話が出た。特に、農業体験なども様々あるので、もっと増やしてはどうかと意見があった。

アルミ缶回収について、昨年度は地域を巻き込んだ活動を行っていたが、今年度は現状、生徒と保護者で頑張ろうということで活動していた。しかし、地域の方もぜひ参加したい、応援したいという思いがあると声をいただいた。地域が入る事でどれくらい効果があるかということを実感して、地域への感謝の心を育ててほしいという意見があった。

不審者対策について、携帯電話や防犯ベルの所持や子ども110番の家の確認などが挙がっていた。実際に自治会としても防犯灯などは町や各自治会に呼びかけて、たくさんつけてもらう予定となっている。まだまだ課題がたくさんあるが、意見を集約して対応していきたい。

2. 全体での協議・質疑応答

稲川会長： 芳賀南小の「みなみ会にじ」について教えてほしい。

岩村委員： 昨年度の学校運営協議会で各学校にボランティアコーディネーターを配置して、南小は広田委員が中心となり学校支援ボランティアとして「みなみの会にじ」を立ち上げた。各学校で組織を作って活動している。

今西委員： 子どもと掃除をしたり、子どもたちに昔遊びを伝承するために練習したりしている。参加している人たちが楽しみながら、学校の手伝いなども行っている。

岩村委員： 北小の発表で、子どもたちを地域の行事に参加させたいという話があったが、事業によって町の担当課もバラバラで連携が取れていないと感じる。八ツ木ニュータウンは自治会連合会に入っていないという問題もあるので、行政も課同士の横の連携を取ってほしい。

岩崎委員： 町行政の話、東小廃品回収があった。祖陽が丘から出したいと意見があったが物が集まらなくて取りに行かなかった。自分と同じ地区に芳賀町の職員が住んでいるのでその話をしたら、祖陽が丘にも職員が住んでいるからその職員を通して地域に連絡したらどうだと意見があった。

昔は地域づくり委員会として職員を巻き込んでいた。そういう仕組みがあれば職員

にももっと地域に溶け込んで連携を取れるのではないか。

古谷委員： 午後3時頃の小学生が帰る時間に放送は流れるが、中学生が帰る時間には放送がない。その時間に流れるともっと効果があると思う。午後4時頃に流してくれるだけでも。

関本委員： 自宅の目の前など、設置場所によっては音が大きくて騒音となってしまう、撤去した例もあるので難しい部分もある。

手塚委員： 以前は防災放送を活用していた時もあった。コロナなどで一度中止してしまったことを復活させることは大変。ネガティブな意見が一つでもあれば、やめておこうという方向になってしまう。帰る時間がバラバラなのであれば、交差点を明るくするなど子どもたちが帰りやすくする。町全体に防犯意識のある、犯罪が近づかない町づくりを立体的に行っていくべき。

同時に、何かあれば110番にかければいいという話を中学校でしていたが、連絡手段がない中でかけろというのは無理がある。危険回避のために、学校の規則を直して、携帯電話などの連絡機器を所持させることを検討する時期に来ているのではないか。

稲川会長： コロナでなかなか実施できていないと聞いているが青色防犯パトロールや、自治会や商工会で110番の店の看板を作成しているなど、安心安全というような意味合いの所でさらに皆様から意見があれば伺いたい。

岩村委員： 芳賀中の分科会でも学校に防犯ブザーの在庫があるので生徒たちに持たせようかという話になり、自治会からも生徒全員に防犯ブザーがあった方がいいと思うので町に予算の要望をしてもいいのではという意見もあった。

スマホに対してネガティブな意見もあると思うが生徒に意見を聞くといつでも連絡を取れるという安心感が携帯電話にはあると。保護者としても自転車トラブルや不審者とあったときに親とすぐ連絡が取れるという、お守り替わりとして考えてほしい。

稲川会長： 子どもたちの携帯電話の持ち込みは禁止という扱いになっているのか。

山本校長： 県の方針で、すべての中学校で携帯電話の持ち込みは禁止となっている。

関本委員： 禁止となっている理由をわかる範囲で教えてほしい。

山本校長： スマホの利用で児童生徒が犯罪に巻き込まれている件数が多いという理由が大きいと考える。また、ポケットに入れているだけでも集中力が落ちるとも言われている。

稲川会長： スマホは中毒性があり使い方を間違えると大変な事になり、そういった部分が学校教育から見ると制限をかけざるを得ない部分であると思う。正しく使えば便利なものではあるので、バランスが難しいところ。

森島委員： 声掛け事案について、現場を見に行くとわかるが、公衆電話まで相当離れている。一キロ圏内に家もないようなところもある。110番の家があったとしてもその家に駆け込むまで相当自転車で逃げないといけないし、防犯ブザーの音すら届かない可能性があり、街灯をつけただけでは意味がない。もちろん地域差はあると思うが抜本的な解決策とはならない。芳賀町は家よりも田畑の方が多い。こども110番の家に逃げ込むだけでなく、見かけた農家の人に声をかけるような教えも効果があると思う。農家の人が青パトの役割を兼ねるような芳賀町特有の対策を練ることができると思うのでみんなで知恵を絞っていききたい。

関本委員： 芳賀町の中でも地域、場所によって条件が違うので、抜本的な解決策をそれぞれの地区みんなでの議論をしたい。また、防犯とは少しそれるかもしれないが、県道バイパスのトンネルの中に落書きがされている。子どもが通る場所なので県に問合せてすぐに対応してもらった。

手塚委員： 我々の立場でできることといえば、青パトを走らせること。抑止効果があるだろうということだが、活動にネガティブな意見もある。警察が原則二人で乗ることになっているというが、警察も一人で乗るときはあるし、コロナ禍であるから臨機応変に使用した方が良い。

3.まとめ

稲川会長： 安心安全についても短時間で話し合っただけでも様々な視点があった。安心や安全という部分は協議会のみで話し合っただけで解決することではないが、学校と地域の協働を目指す学校運営協議会だからこそその意見を出して様々な団体と協力してより安心安全な地域づくりができればと思っている。今日の段階では、意見できるほどのまとまりにはならないと思うが、意見はあるか。

岩崎委員： 各小中学校の分科会で不審者対策の話はよく出るので、検討会議を持ってほしいと町に意見したい。

稲川会長： 学校運営協議会から意見できるのは教育委員会なので、町へ直接は意見できない。町から安心安全の対策について案内できるものなどがあれば。

小林課長： 学校教育課では見守りの放送について時間がかかってしまったが15時から放送できるようになった。中学生の帰宅時間の放送についても検討していきたい。防犯ブザーについては、来年度全児童生徒へ配付できるように検討したい。

交通安全の対策会議ということで、各学校からPTA保護者や学校の先生から道路の危険箇所を挙げていただき、町建設課、警察、真岡土木事務所と改善できるよう対策を取っている。

高津課長： こども110番の店のステッカーを作成して地域の皆様が活動してくださっていることを受けて、生涯学習課では、こども110番の家のステッカーの見直しについて、何らかのアクションを起こさないといけないということで総務課など関係各課と相談中。

手塚委員： 分科会を学校ごとではなく、児童生徒の安心安全に関するプロジェクトを作る。そして、学校運営協議会から出た意見として、町に予算化の要望をしたり、教育長へ申し出をしたりする方法がある。

稲川会長： 具体化を含めて議論を詰めていかないと今後の進展につながっていかない。今日の協議会としては取りまとめないので、引き続き熟議の中で学校とどう連携が取れるかということを考えていけたらと思う。

関本委員： 町と議会に持って行かないと話には先に進まない。協議会として意見をまとめて町長あるいは議長に対して進めていかないと、予算が絡むことなので時間がかかる。安心安全については常に緊急を要するテーマであるので、意見を出し合っただけで進めていきたい。

4 事務局からの事務連絡

(1) こども110番の店

手塚委員： 町を挙げて自治会と連携して、地域の方々と一緒になって子どもを見守ろうという機運が高まってきて、それらを伝えていた町商工会の会長副会長らが我々も一歩前に進められないかという意見があった。町のお店に「こども110番のお店」というステッカーを貼って行って、子どもたちの安全を見守っていききたい。

(2) 令和4年度教育研究発表大会

学校運営協議会委員でもある今井由佳さんが発表される。オンラインで参加できるので視聴環境がある方はご自宅などで見ていただいてもいいですし、町民会館でも見られるようにするのでぜひ参加して欲しい。

(3) 学校運営協議会からの防犯灯設置要望まとめ

学校運営協議会からの要望により、今年度通学路の危険個所に28か所の防犯灯が増設された。今後も委員の皆様のご意見をいただき、より安心安全なまちづくりに努めていきたい。

5 閉会